

江戸の坂道散策

第2回 網坂 (港区)



山野 勝 Yamano Masaru 坂道研究家

1943年、広島県生まれ。早稲田大学政経学部新聞学科卒業。報知新聞社を経て講談社に入社。「ヤングマガジン」編集長、第3編集局長、取締役、常務取締役を務め、現在講談社顧問。この十数年、東京の坂道を積極的に歩き、エッセイや講演などで坂道ブームの火付け役に、『タモリのTOKYO 坂道美学入門』（講談社）に企画参加。著書に『江戸の坂——東京・歴史散歩ガイド』（朝日新聞社）がある。

港区の三田二丁目三と五の間を北に向かって上る名坂を「網坂」(別名 渡辺坂)という。東側には慶応義塾大学とイタリヤ大使館があり、西側に綱町三井倶楽部がある。両側から巨樹が枝を伸ばし、坂に覆いかぶさっているのが、まるで緑のトンネルの中を走っているようだ。三井倶楽部の石垣と化粧れんがが美しく、情趣と風格を備えた安らぎの聖域をつくっている。

網坂一帯は江戸時代には大名屋敷が立ち並んでいた。イタリヤ大使館の地は伊予松山藩主・松平隠岐守の中屋敷跡で、赤穂浪士の大石主税ら十人がここで切腹したことで知られる。三井倶楽部と、西側に続くオーストラリア大使館には、陸奥会津藩主・松平(保科)肥後守と日向佐土原藩主・島津淡路守の屋敷があった。

坂名の由来は平安時代の武将・渡辺綱の伝承にある。綱は源頼光の四天王の一人。頼光に従い、京都・大江山で酒呑童子を殺したり、羅生門の鬼退治をしたことで有名だ。祖父が武蔵守だったことから関東での出生伝説や活躍秘話が生まれた。

近くの竜生院(三田二丁目十二)

五)には「綱の産湯の井戸」があり、御田八幡神社(三田四丁目)は綱の氏神と伝え、羅生門の高札というものが所蔵されている。また、自証院(新宿区富久町四丁目)には綱の土蜘蛛退治の伝説が残されている。

網坂の突きあたりを右折すると「綱の手引坂」の下り。綱が幼少ころ、姥に手を引かれて坂をいきさしたというのが坂名の由来。北には水天宮で有名な筑後久留米藩主・有馬中務大輔の上屋敷が広がっていた。



綱の手引坂

コウム坂 一服茶屋

外国人の名前がついた坂が品川区に二つある。南品川のゼームス坂と、東大井のヘルマン坂。ジョン・M・ジエームスは慶応二(一八六六)年に来日した、イギリス人の造船技術者。ヘルマン・シュプリット・ゲルベルトはドイツ人。

二人とも坂の近くに住んでいた。道路の改修に際し、私費を投じて協力したので、地元の人たちが感謝の意を込めて彼らの名前を坂名に残したのだという。